

平成30年度 第3回 石岡市りんりんタウン構想推進委員会 会議録

- 1 日 時 平成30年11月20日（火） 午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 石岡市八郷総合支所1階101会議室
- 3 出席者 委員11名（疋田会長，木下副会長，絹代委員，青木委員，吉富委員，綿引委員，大枝委員，中島委員，高木委員，亀井委員，根本委員）

4 会議内容

（1）開 会

（2）挨 拶

【会長】 11月17日（土）に市にお招きいただき，市主催の自転車のイベントに参加した。

イベントはまずまずの反響で，高齢者を中心に様々な方々に来ていただいた。

イベント初回としてはそれなりではあるが，後から振り返った時のスタート地点として良い思い出になると考える。イベントでのシンポジウムでは，電動アシスト自転車やツーリングを推進するという事務局の提案が示された。その後，市長に先導され恋瀬川を自転車で走り，恋瀬川サイクリングコースは良い場所で，たくさんのサイクリストを呼べる場所と感じた。恋瀬川周辺のススキや点在する竹林，美しい田んぼ，昔懐かしい暮らしの風景などは，まさに日本の風景と言える。コースを取り巻くこれらの環境が他の土地にはない特別なものと感じた。一方で歩行者や自転車が少なく，車ばかりであり，自転車の伸びしろが大きいという感想を持った。今回は，これから市が進めていく自転車に関する構想の具体的な施策について協議して頂く。市が構想を作っただけで終わるのではなく，実際に自転車に乗ってもらうにはどうしたらよいか，また，市の外部から観光振興として来てもらうにはどうしていくことがよいか，より効果的な施策につなげていきたいと思っている。

（3）議 事

【事務局】 配布資料に基づいて説明

【会長】 石岡市りんりんタウン構想（素案）（以下，構想）の施策について主にご意見を伺いたい。施策の目標は大きく分けて2つあり，一つ目は『暮らしの中の自

転車環境の整備』、2 つ目は『観光振興における自転車活用の推進』である。まず、『暮らしの中の自転車環境の整備』の施策についてご意見をいただきたい。

【委員】 サイクルポート、サポートステーション、サイクルステーションは、それぞれどのような施設をイメージしているか教えてほしい。

30 ページの施策『(6) スポーツ振興』における指標はサポートステーションの設置箇所数となっているが、スポーツ振興と結び付かないのではないかと。

例えば観光ルートをつくる施策もあるため、フィットネスを目的としたモデルコースをつくるという指標でも良いのではないかと。29 ページの施策『(4) 自転車による健康づくり』の指標は、アンケートでは分かりにくく、より分かりやすい数値が良いと考える。

また、リーディングプロジェクトの中に交通ルールやマナーが含まれていないが、重要なプロジェクトであると思う。

【事務局】 サイクルポートは 28 ページ中段の写真に掲載しているような、屋根つき駐輪場をイメージしています。サイクルサポートステーションは、37 ページの上段に掲載している写真のようなサイクリストが利用できるサイクルラックやトイレ等を設置している場所を考えています。サイクルステーションは、交通結節点となる場所にシャワー等も配備するなど比較的大規模な施設を想定しています。

【会長】 サポートステーションは愛媛県で行っている“サイクルオアシス”と似たような施設イメージか。その場合は、観光振興に近い施設ではないか。施策『(6) スポーツ振興』の目標は暮らしの中の自転車環境の整備であるため、市民に使ってもらえるための指標であると良いと考えるが、事務局の意見はどうか。

【事務局】 サポートステーションはご指摘いただいたように、観光振興に近い指標となりますので、市民のスポーツ振興に合う指標を検討してまいります。

【会長】 市民がスポーツとしてサイクリングを楽しんでもらうための施策としてはどのようなものが考えられるか。

【委員】 自転車に乗ってもらわないと始まらない。市民が自転車に乗るきっかけを作ることが重要である。サポートステーションは、市民というよりは、市外のサイクリスト向けのステーションとなるのではないかと。

- 【委員】 イベントで自転車試乗会を行ったが体験した人は少なく、自転車に新たに乘ってもらうことが難しいと感じた。
- 【委員】 近くのスポーツジムや運動ができる公共施設などを活用することもできると考えられるが、現状ではどのような施設があるか。
- 【事務局】 運動公園の中に市民が利用できるジムのようなスポーツ施設があります。
- 【会長】 絹代委員は、サイクリングする人をまち内外から集めた活動『散走』を行っており、都内の自転車屋さんが自転車イベントを開催するなどサイクリングを促している。石岡のまちなかで住民が自転車に親しめるような取り組みがあるのか。
- 【委員】 恋瀬川サイクリングコースを活用した取り組みがあるが、往復 20km で中途半端な距離である。ここでは人がいないところを自転車が走っているという状況であるが、人がいる場所で自転車を走らせると、乗ってみようと思う人も増えるのではないか。
- 【委員】 個人的にサイクリングクラブをつくり、毎週練習会を開いている。
- 【委員】 スポーツを振興する場合、一つの部署の担当になるのか。スポーツ振興と健康づくりは内容が近いが、別々の部署で対応するのか。
- 【事務局】 スポーツ振興と健康推進は担当する部署が別々にあるが、必要であれば分野横断的に複数の課で連携して事業を担うこともあります。
- 【会長】 スポーツ振興と健康推進の施策は一つの施策としてまとめても良いのではないか。健康・体力向上のために自転車に乗ることは効果があることを伝え、自転車に乗ってもらうすそ野を広げていくことが大切である。まず自転車に乗るということに高いハードルはあるが、愛媛県松山市では自動車学校の協力を得て、スポーツ自転車を試乗させてしまなみ海道までサイクリングに引き連れている。自転車に乗る意欲が醸成され、住民が次のステップに進むことをサポートしている。
- 【委員】 以前は、夫婦で自転車に乗って楽しむ頃もあったが、近ごろの母親は「恋瀬川サイクリングロードなどは子どもが自転車で楽しく走ることができれば良

い。」という感覚であり、母親が遠方まで自転車を利用することはない。

【委員】 自転車は子どもが乗るものというイメージがあるようだ。自転車は大人も楽しめて健康になる乗り物で、自宅発着型の使い方が可能であると周知できると子ども以外の方にも普及するのではないか。

【委員】 自転車が嫌いな人に好きになってもらうことは難しいため、自転車好きがもっと利用しやすいようにする方が良い。

【委員】 普通自転車に乗っている人がスポーツ自転車に乗り替えることは難しい。普通自転車でも空気をしっかり入れて、サドルを調整すれば、乗りやすくなると感じる人は多いと思う。まずそのような取り組みを進めていけると良い。

【会長】 ある程度離れた場所への移動は現実的には車が主となるだろう。危惧することは公共交通との連携である。11 ページの内容のとおり、市内には公共交通空白地域が広くある。市はサイクルポート等の設置により自転車圏を広くして公共交通空白地域を狭くしようという施策を提案している。車への依存を少なくするためにこの公共交通の施策をさらに具体的に進められないか。例えば、バスの増便やバスへのサイクルラック設置などの取り組みは可能であるのか。また、事業としては、サイクルポートの設置がどの程度可能であるか。レンタサイクルは観光の視点であり、シェアサイクルのほうが市民向けのような気がする。

【委員】 公共交通は別委員会で検討しているものであるが、公共交通空白地域などの足代わりとしてデマンド交通を運行している状況である。公共交通は年間数千万円の赤字であり、路線の見直しなどは難しいと考える。まちでイベントを開催した際に車を停める場所が課題となっており、イベント開催時の移動に自転車が活用されるまちになると良い。

【会長】 石油輸出の情勢でガソリンが高騰し、デマンド交通に対してもガソリンが使えなくなるなど、ネガティブな事象を想定すると、自転車を使う環境にならざるを得ない事態も生じるのではないか。

【委員】 東日本大震災の時はなるべく自宅から移動しないようにして、自転車に乗る発想がなかった。

【会長】 被災地でも自転車は使われなかったようである。自転車に慣れていないから使われなかったのでしょうか。

【委員】 震災当時は1台の車に乗り合わせるなどして対応した。

【事務局】 震災当時、通勤などで自転車が必要で探したが、どこの店舗も売り切れとなっていた。

【委員】 自転車は完売したが、その後、購入された人が自転車を利用しているかどうかは疑問である。

【委員】 震災があつて、体力がないと生き抜けない、家族を守れないと考える人が増え、スポーツジムの利用者やサイクリストが増加した。自転車を使おうという機運が高まった時に自転車を利用しやすいまちづくりをしていると、自転車を利用しやすいとともに災害に強いまちになっているのではないかと。車に乗らない日など、カーフリーデーは市にあるのか？

【事務局】 ノーマイカーデーが以前あったが、ここ数年は行っていない。

【委員】 交通安全講習の実施だけを指標に挙げるのではなく、講習会の参加者人数を指標にあげてはどうか。あと、既存の駐輪場の他にサイクルラックは必要なのか。

【事務局】 スポーツ自転車が駐輪できるように、今ある駐輪場と合わせてサイクルラックを設置したいと考えています。また、サイクルラックには重点事業にも掲載している県産木材の利用を検討しています。

【委員】 自転車の利用を前向きに考えられると良い。茨城県庁では一般駐輪場の一部を削ってスポーツ自転車用の駐輪場所を設けたことにより、普通自転車の駐輪スペースが不足する事態となった。石岡市で駐輪スペースを確保する際には注意してほしい。

【会長】 次に、観光振興の施策についてご意見いかがでしょうか。

【委員】 サイクルステーションなどを訪問した人が休憩できるとともに、トイレが利用しやすい環境になると良い。まちに訪問客を受け入れる立場から考えると、

自転車が安全に走れるように車を運転する人のマナーを改善していく視点も大切ではないか。

【委員】 意見があったように安全な環境でなければ、サイクリストのロコミにより悪い噂というのは広まってしまうので気を付けなければならない。一方で、自転車で市を訪れた人が、まちの人々に恐怖を与えないようにしなければいけないと考える。構想において、なぜ石岡に来てもらうかというコンセプトがもう少し見えると良い。

観光振興の基本目標に“サイクルフェスやツーリングイベント等により自転車利用の啓発活動を推進”とあるが、観光振興にはそぐわないのではないかと感じる。観光振興において、まず情報発信をすることが重要な取り組みであり、石岡の強みを出して石岡にわざわざ来てもらうことが必要である。

市民向けのサイクリングクラブも考えられるが、観光振興においてもそのような取り組みを提案できると良い。

【委員】 全国的にトレイルランも盛んである。筑波山から八郷に下りてくるなどのイベントを通じて誘客できると良い。

【委員】 市外から見ると、石岡は地域資源が多くあるのではないか。

【会長】 調査結果を見るとサイクリストは、フルーツラインを使っている。このフルーツラインの活用はどうか。

【委員】 もう一つのトンネルが開通すると、さらに大型車が増加してフルーツラインの自転車の走行が厳しくなるのではないか。

【会長】 大型車が危ないから自転車が走行できないということではなく、大型車が通行するが自転車も安全に走行できるという環境を作るべきである。

一方でバイパスができた後、旧道をサイクリングコースとして活用できるのではないかという市長の話もあった。

【委員】 以前よりフルーツラインを利用するサイクリストは減少したが、今も競輪選手が練習に来ており、著名人も石岡で自転車を利用しているそうだ。

【会長】 構想にイベントの実施が挙がっているが、イベントは開催するタイミングが重要である。群馬の赤城山はそれほど走行環境が良い訳ではないが鈴鹿サーキ

ットにおけるイベントと同日開催にしたため、鈴鹿に行けなかった人の集客に成功している。関東圏の開催であれば、参加者は集まるのではないか。石岡の場合、フルーツの美味しい時期にイベントを実施できると良い。

【委員】 フルーツを食べることができるイベントは良いと考える。イベント時にフルーツのクーポン券を景品としている事例もある。なお、榛名山ヒルクライムでは定員を超えても参加者を受け入れており、参加者が多すぎて走行環境が良いとは言えない状況となっている。

【委員】 フルーツラインは片道 12km しかないが、沿道に学校跡地などもあり、活用できそうな資源が多くある。風土記の丘を周遊するコースなど、石岡ならではの様々なサイクリングコースはあるのではないか。

【委員】 観光に着目したサイクリングイベントが石岡市には合っているだろう。

【委員】 29 ページにおいて、小・中学生に関係する内容が見えない。小・中学校 19 校全てで安全講習会を実施しており、施策『(5) 交通ルール及び自転車保険の普及』における記載内容は一般市民向けの内容と考える。子ども対象の内容も構想の中で明記してほしい。

【会長】 14 ページの交通事故発生状況では、中学生の自転車乗用中の事故が高校生よりも多い。

【委員】 高校生は走行距離が長くなるから自転車に乗らないということか。グラフの灰色（その他）とはどのような事故か。

【事務局】 人口 10 万人当たりの事故であり、灰色には自動車同乗中の事故も含まれている。

【委員】 バス停にどのようにサイクルポートを作ろうと考えているのか。

【事務局】 サイクルポートは 41 ページの計画の実施スケジュールに掲載したとおり、来年 2019 年度からの 10 年間でコミュニティバスとの連携を考えていきたい取り組みです。しかし、具体的な設置場所などについてはこれから検討していく予定です。

【会長】 施策についてその他にご意見あるか。

【委員】 交通事故発生状況を見ると、小・中学生及び高齢者の事故が多く見える。安全講習を実施していても、内容が身につくまで何度も反復した教育が必要であるとともに、高齢者においては免許返納者への対応や免許返納前の人々への自転車利用の講習などを考慮しなければならない。安全教育と同時に乗り方を教えることが大切である。教育機関などと連携して自転車に親しめる講習イベントを実施し、様々な年齢層の参加を促すとともに、乗り方も合わせて学ぶことができるとうい。

リーディングプロジェクトの中に交通ルールや乗り方に関する事業が入っていないが、市民に自転車の活用を広めていくのであれば、施策『(5) 交通ルール及び自転車保険の普及』も入れるべきではないか。

車社会であるため、車を運転する人に自転車と道路を共有する意識を醸成する必要がある。自動車運転者に対する広報活動もリーディングプロジェクトに入れるべきではないか。

【会長】 教育はリーディングプロジェクトに加えて良いのではないか。

【委員】 可能であれば、未就学児と就学した子どもは分けた講習イベントを行ってほしい。未就学児に対しては、親も一緒に学べるような環境が望ましい。

【会長】 施策『(8) 災害時における自転車の活用』はどのようなイメージか。自転車は災害時の避難での利用とともに、災害後の物資供給などでも活用できると考えている。

【事務局】 この施策においては、職員の対象の自転車活用も考えています。災害時に道路を自動車が通れない状況でも状況調査などのために職員が移動・連絡調整ができるようにしたいと考えています。

【委員】 サイクルスポットに太陽光パネルを設置し、自転車での移動や情報を得られるようにしている事例もある。国も災害時の自転車活用方法をまだ検討中の状況ではあるが、可能であれば避難と合わせてもうひとつ自転車を利用するメリットがあると良い。

【会長】 ヘルメットの購入支援は良い取り組みだが、白いヘルメットの利用はやめてほしい。白いヘルメットでは子どもがヘルメットを被らなくなってしまう、そ

のうちの誰かが事故に遭う事態が生じる恐れがある。愛媛県では学生がヘルメットの色等を個人で選ぶことができ、高校生まで自主的にヘルメットを被る現状もあるようだ。

【委員】 駐輪スペースは商業施設にもあるのか。施策『(3) 駐輪場の確保』では、商業施設も含めて考えているのか。

【事務局】 公共施設にはほぼ駐輪スペースがありますが、商業施設はそれぞれ異なります。施策においては公共施設の駐輪場を主な対象と考えています。

【委員】 構想を作っていることは広報しているのか。構想について知る人をまず増やしていくべきではないか。

【事務局】 事務局としてはまず構想を策定し、自転車の普及に努めていきたいと考えています。現在は策定中であるため、広報としては市の HP に公開しているのみとなります。素案ができた段階でパブリックコメントをかけ、市民皆さんのご意見を伺う予定です。

観光からのアプローチとしては、イベントを来年度から実施する予定です。

ネットワーク計画についてはワーキングチームを本委員の中から複数人協力いただき、進める予定ですが、まだ検討中です。

【委員】 本日いただいた意見は市として大いに参考にさせていただきたい。筑波山から広がる峠道をいくつか自転車ネットワークに位置付けたいと考えており、県と検討している状況である。また、かすみがうら市が先行してイベント等を行っているが、本市にも共同開催の投げかけをいただいているため、今後一緒に考えていきたい。施策『(4) 自転車による健康づくり』の民間企業との連携によるウェルネス講座等と施策『(6) スポーツ振興』のサイクルクラブの育成の事業は、ぜひ行いたいと考えている。ヨーロッパでは、生涯スポーツのクラブがいくつもあり、仲間づくりが当たり前の環境にあるようで、そのような取組みが本市でもできると良いと考えている。

【事務局】 今回の皆さんからいただいたご意見を踏まえ、構想内容の修正とパブリックコメントの実施を進めてまいります。ネットワーク計画との整合も図りつつ、時期が確定次第、皆さんにご連絡いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

5 閉 会

以上